

2020. 1. 13

畑 啓之

苦しみ抜いて身につけたものは一生の宝　それが日本で取得できるロンドン大学学位

かつて日本にいながら海外の大学の学位が取れとの触れ込みで、多くの大学ができた。またその頃には、簡単な論文審査で海外の大学の博士号が取れるとの多くの宣伝もなされ、ネットを通してその情報が入ってきていた。金で博士号を買う話である。実際にその方法を使って博士号を取得された方も数名は知っている。20年程前の話である。

その後、英語と国際交流を主軸に据え、日本国内でもインターナショナルを表看板とする大学や学部が設立され、それなりの成果を出してきていることは周知の事実である。

そして本日の日本経済新聞では「ロンドン大学の学位が日本でも取れる」というものである。20年前の焼き直しかと記事を読んでもとそうでもないようである。

日本の大学は入りにくく出やすい、それに対して欧米の大学は入りやすく出にくい、と言っていたのははるか50年前の話である。このころの日本の大学を象徴する言葉として「ところてん大学」があった。入ったもの、入った学生はかならず押し出す、卒業させるという意味である。

これに対して欧米の大学では学科の単位を得るのが大変である。よく映画などに、大学の図書館で多くの本を目の前に積み上げ授業のための予習をしている学生の姿が出てくる。予習をし、与えられた課題の答えを自ら見出す習慣をつけること、そしてこの繰り返しにより問題解決能力を高め自らのものとしていくこと、これこそが欧米社会の考えている学習(教育)のあるべき姿である。欧米式の教育においてはそのトレーニングにディベートも取り入れられている。

新聞記事に示されたロンドン大学の授業はまさにこの方針で行われているものと考えられる。「教科書だけでなく膨大な参考文献を読み授業に臨むことが求められる」「概念や理論の正確な理解に基づいてアカデミックにコメント・議論できる必要がある」がこの部分である。

「入りやすいが出にくい大学」で得られると同等の能力　これが約20年前より始まった日本の成果主義社会を生き抜くために必用となってくることは間違いない。必須項目は「自らの頭で考える能力を身につけること」「そのために必要な材料(資料)を自ら探し出せる能力を身につけること」である。

日本でロンドン大の学位

日本で学びながらロンドン大学の学位を取得できる武蔵大学の教育プログラムが初の修了者2人を出した。プログラムの責任者を務める鈴木唯教授は、ロンドン大の要求水準は想像以上に厳しく、学生にも教員にも試練だったと振り返る。



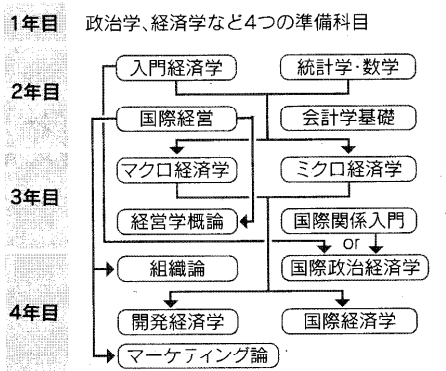
鈴木 唯
武蔵大学教授

武蔵大学のバラレル・ダイグリー・プログラム（PDP）は、武蔵大に通いながらロンドン大学の基礎教育プログラム（IFP）と専門教育プログラム（BSC）を履修し、武蔵大の学位とロンドン大の経済経営学士号の取得を目指す国際的プログラムである。授業

後の試験は武蔵大とロンドン大が別々に実施。両校が独自の判断で学位を授与することで、それぞれが教育の質に対する責任を果たしている。BSCは世界180カ国以上で5万4千人超が学ぶ世界共通のプログラムだ。武蔵大で実施する授業内容の管理やロンドン大の試験の出題・評価はロンドン・スクール・オブ・エコノミクス（LSE）が行っている。

修了に厳しい要求水準

ロンドン大の科目履修の流れ（矢印が履修前提科目）



果と受け止めている。しかし、2015年9月にIFP履修を始めた1期生は19人いた。ロンドン大の厳しい要求水準をクリアするために学生と教員が共に苦闘した4年間でもあった。特に厳しさを感じたのがカリキュラム構成だ。必修科目が多いうえ、プレリクイジットと呼ばれる履修前提科目がある。BSC1年目に数学や入門経済学（ともに必修）の単位を落とすと、2年目のマクロ経済学やミクロ経済学（同）を履修できず、ミクロ経済学がマクロ経済学を落とすと3年目の選択必修科目（国語を暗記する学習には慣

前提科目の履修必須 ■ 教える側にも緊張感

1年目 政治学、経済学など4つの準備科目
2年目 入門経済学、統計学・数学、国際経営、会計学基礎、マクロ経済学、ミクロ経済学
3年目 経営学概論、国際関係入門、組織論、国際政治経済学
4年目 開発経済学、国際経済学、マーケティング論

れているが、この学習スタイルでは通用しない。まず教科書だけでなく膨大な参考文献を読み、授業に臨むことが求められる。用語の定義を覚えることから始め、現実を観察される事象に関し、概念や理論の正確な理解に基づいてアカデミックにコメント・議論できる必要がある。こうした学習スタイルの転換は決して簡単ではなく、しかもすべて英語なので学生に相当な負担である。

ロンドン大のBSCを提供しようとする強い意志だ。入学時点で多少学力があっても予習・復習で覚えれば脱落していく。逆でロンドン大の科目を履修できる体制を整えた。19年にはLSEとも留学派遣に関する協定を結び、現在3期生1人が学んでいる。ロンドン大のBSCプログラムを実施する大学は多く、留学先を充実させていきたい。PDP開始から4年がたち、学位取得者を出すこともプログラムの運営経験も十分に積めた。

武蔵大は22年度に「国際教養学部（仮称）」の開設を計画しており、新学部においてPDP履修生を現在の2倍程度に増やすことを検討している。経済・経営学の専門性に加え、高い語学力や教養も備えた真のグローバル人材の育成に向け、同学部の教育体制の充実を図る準備を進めている。21世紀の課題を担う国際人を育てるという学園の方針の下、PDP履修生という「芯」となる層を得ることが、実際をより太いものとしていくことで、大学全体の国際化や声価向上の推進力となることを信じている。